

施策評価シート（評価対象年度：令和元年度）

1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	2 排水施設の整備	② 施策番号	6303
③ まちづくりの方向〔政策（章）〕	5 快適で活気にあふれ、環境にやさしいまち		
④ 基本施策〔施策大（節）〕	1 豊かな自然環境を維持・向上し、うるおいあふれるまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	1 河川・ため池の保全と活用		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
都市整備部	下水道課		

2. 施策の現状把握

〔1〕施策の対象・意図

① 施策の対象（誰、何に対して施策を実施するのか）	排水施設
② 意図（対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか）	排水施設を良好な状態に保つことにより、浸水被害を受けないよう排水施設の整備と適切な管理運用を行う。
③ 環境（この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか）	ゲリラ豪雨等、昨今、今までにない大雨が増えてくる中で、施設機能の増強が望まれる。

〔2〕施策指標及び推移

施策指標（成果指標）		単位	指標とした理由・考え方
① 浸水件数	計算式	件	浸水被害の防止を目的とするため。
② 排水路改修・修繕件数	計算式	件	排水路改修・修繕を進めることで浸水被害の防止を図る。
③	計算式		

	指標名	単位		H29実績	H30実績	R1実績	R2見込	R3目標	備考
① 浸水件数		件	目標値	0	0	0	0	0	
			実績値	1	0	0	—	—	
			達成率						
② 排水路改修・修繕件数		件	目標値	10	10	10	10	10	
			実績値	6	5	2	—	—	
			達成率	60.0%	50.0%	20.0%			
③			目標値						
			実績値						
			達成率						

〔3〕施策を構成する事務事業

	事務事業名	成果指標					総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化
		指標名	単位	H30実績	R1実績	R2見込	H30実績	R1実績	R2見込	総合評価	今後の方向性	
1	浸水対策事業	浸水件数	件数	0	0	0	9,591	7,981	7,519	A	ア	◎
2	排水路管理事業	修繕件数	件数	5	2	3	7,713	6,159	10,466	A	ア	○
3												
4												
5												
6												
7												
8												
計	2						17,304	14,140	17,985			

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	排水施設の整備とその適切な管理・運用を行うことでゲリラ豪雨等の浸水被害から市民を守る。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2[2]の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	毎年、数か所の修繕にとどまっている。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	排水施設の維持管理は市の責務である。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2[3]を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	必要な事務事業で構成されており、適正である。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2[3]において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	二事業共に重要であるが、老朽化しているポンプ施設が存在することから浸水対策事業を重点化する。

4. 一次評価(所管課評価)

一次評価	評価(A～D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	C	かつて経験をしたことのない大雨やゲリラ豪雨が増えている中で、施設機能の増強や老朽化対策が望まれるが、多額な費用を要することから、優先順位を付けるとともに、実施エリアのバランスの判断が課題である。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	老朽化が進むポンプ施設の整備・改修を行う。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	地元要望を精査し、緊急性、優先順位を付け、整備・改修を行う。
中長期的対応 (3～5年をめどに取り組む改善案)	中長期的な計画の策定と実施。

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

二次評価	評価(A～D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	C	浸水被害防止のため、排水施設の老朽化対策における優先順位付けを進めるなど計画的保全による整備を進められたい。 増加する大雨やゲリラ豪雨については、その対応に向けた取組・展開について検討されたい。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある